

例会記事

九月例会 昭和六十二年九月二十六日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、ドイツ人教師デーニッツ(解剖学)の持参した骨格標本

神谷敏郎

二、日本温泉史資料供覧

中村 昭

十月例会 昭和六十二年十月二十四日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、仏教医学の変遷

杉田暉道

二、(一)古代ギリヤ医学の原典研究

(二)ビデオ鑑賞

大槻真一郎

例会抄録

曲直瀬養安院の人々

——麻布天真寺に遺存する資料はかから——

小曾戸 洋

曲直瀬道三は近世日本における伝統医学の礎を築いた人物として高く評価される。その跡は、玄朔(今大路家)・正純(亨徳院家)・正琳(養安院家)の三大家系に分岐し、いずれも地位と名声ある子孫を輩出して幕末に至った。曲直瀬の学統はこの三大家系を主軸に江戸時代全期を通じて権勢を維持したのである。

今大路家ならびに亨徳院家については累代の墓碑が碑認されており、それに関する報告もすでにある。ところが養安院家に関しては、従来書誌学関係において善本を多数収蔵したことから若干の知名はあるものの、まとまった研究をみない。

演者はこのたび、養安院玄理以下が葬られたという東京麻布の天真寺を調査した結果、種々の資料を得、従来知られていない事実も判明した。養安院家は江戸初期より幕末に至るまで歴代にわたり法印・法眼を輩出した名家で、その足跡は日本近世医学史上再評価されてしかるべきと考える。よってここに報告に及んだ。

一 麻布天真寺に残る墓碑と過去帳

天真寺は禅宗(臨済宗大徳寺派)京都紫野大徳寺末で、寛文元年(一六六一)豊島郡江戸麻布村の現在地(東京都港区南麻布三丁目一番十五号)に創建された。